

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主 査 中村 仁

審査委員 増田 幸宏

審査委員 鈴木 俊治

審査委員 ヤスミン バタチャリヤ

審査委員 村山 顕人

*審査委員

氏 名	Nurul Ashikin Binti Mabahwi
論文題目	The Relation between Flood Risk Management and Spatial Planning: An Evacuation Area Suitability Perspective in Malaysia (洪水リスクマネジメントと空間計画の関係： マレーシアにおける避難場所の立地適合性の観点から)
〔論文審査の要旨〕 気候変動の影響で激甚化する水害への対策として、洪水リスクマネジメントと空間計画（土地利用計画など）の連携を通じた土地利用マネジメントの役割がますます重要となっている。本論文の目的は、マレーシアを対象として、洪水時の避難場所を適切に確保する観点に着目して、洪水リスクマネジメントと空間計画の連携に向けた関連行政諸機関の課題と可能性を明らかにすることである。 論文は、文献調査および 2 つの事例調査で構成される。文献調査では、マレーシアおよび日本の事例を参照して、洪水時の避難場所を適切に確保するうえで、洪水リスクマネジメントと空間計画の連携の重要性と課題を明確にした。事例調査 1 は、マレーシアの洪水リスクマネジメントと空間計画に関わる行政諸機関の現状と課題の把握である。関連する行政諸機関の担当者 27 名に詳細な聞き取り調査を行い、洪水リスクマネジメントと空間計画に関わる諸機関の権限と連携が欠如している実態、洪水時の避難場所を適切に確保するための問題点と課題を明らかにした。事例調査 2 は、マレーシアの Kuantan 市における洪水避難場所の立地適合性の分析である。独自の適合性指標をもとに地理情報システム（GIS）で分析を行い、21%の避難場所が不適切な場所に立地していること、その原因として行政諸機関の権限と連携において課題があることを明らかにした。また、以上の課題への対応として、避難場所の立地計画、公共建築物に関するガイドライン策定などの提案を行った。 最終審査は、2021 年 2 月 18 日（木）午前 10 時～12 時にオンラインで実施した。プレゼンテーションと質疑応答の結果、論文の目的に対して十分な成果を挙げていると評価された。予備審査において、論文の構成、分析方法について改善の指摘がなされていたが、それらについても対応がなされていると評価された。また、博士論文の成果をふまえ、今後の研究課題、実践面での可能性について活発に議論がなされた。 なお、博士課程在籍中に公刊された研究業績として、国際ジャーナル論文が 2 編、審査付き国際会議プロシーディングスが 2 編（いずれも筆頭著者）という実績を有している。 以上より、審査委員全員が「合格」と判定した。	